

事後評価結果（平成22年度）

担 当 課：道路局国道防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道157号 <small>ののいち</small> 野々市拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局	
起終点	自：石川県金沢市横川5丁目 至：石川県石川郡野々市町横宮町	延長	1.3km			

事業概要

一般国道157号は、金沢市を起点とし、岐阜市に至る北陸地方と東北地方を結ぶ主要幹線道路としての機能と、白山麗地域と金沢都市圏を結ぶ地域内幹線道路機能を合わせ持つ重要な路線である。このうち石川県内については、金沢市から白山市に至る延長約21.2kmを直轄管理区間としており、このうち野々市拡幅は、金沢市及び野々市町における延長1.3kmの事業である。

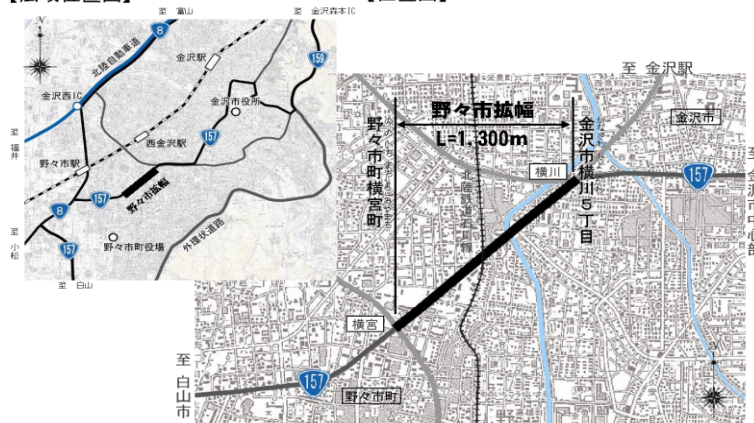
事業の目的・必要性

野々市拡幅は、「交通混雑の緩和」「歩行者・自転車通行の快適・安全性の向上」などを目的とした現道拡幅事業である。

事業概要図

【広域位置図】

【位置図】



事業の効果等	事業期間	事業化年度	S62年度	用地着手	S62年度	供用年	(当初) — / —	変動	
		都市計画決定	S40年度	工事着手	S62年度	(暫定/完成)	(実績) — / H18	倍	
	事業費	計画時	(名目値) — / — 億円	実績	(名目値) — / 34 億円	変動		倍	
		(暫定/完成)	(実質値) — / — 億円	(暫定/完成)	(実質値) — / 33 億円				
	交通量	計画時	— / — 台/日	実績	— / 35,550台/日	変動		%	
		(暫定/完成)		(暫定/完成)					
	旅行速度向上	17.2 → 23.5 km/h	(供用前現道→当該路線)	(供用直前年次) S60年度	(供用後年次) H22年度	交通事故減少	8 → 4.5 件/年		
							(供用前現道→供用後現道)	(供用直前年次) S60~H17年度平均	(供用後年次) H19~H20年度平均
	費用対効果分析結果 (当初)	B/C	—	総費用	— 億円	総便益	— 億円	基準年	— 年
				(事業費)	— 億円	(走行時間短縮便益)	— 億円		
				(維持管理費)	— 億円	(走行経費減少便益)	— 億円		
						(交通事故減少便益)	— 億円		
	費用対効果分析結果 (事後)	B/C	—	総費用	61億円	総便益	85億円	基準年	H22 年
				(事業費)	54億円	(走行時間短縮便益)	63億円		
				(維持管理費)	7.3億円	(走行経費減少便益)	14億円		
						(交通事故減少便益)	7.2億円		
	事業遅延によるコスト増			費用増加額	— 億円	便益減少額	— 億円		
	事業遅延の理由	—							
	客観的評価指標に対応する事後評価項目	I. 活力							
		(1) 渋滞交差点の解消							
		・渋滞対策プログラムに位置付けられていた横川交差点の渋滞が緩和した。(平日：750m→190m)							

- ・横川交差点の通過時間が、7分短縮した。
- (2) 当該路線の整備によるバス路線の利便性向上の状況
 - ・金沢市中心部と主に野々市町、松任駅、新興住宅地を結ぶ県央南部地域の重要な路線バスの定性及び利便性が向上した。
- (3) 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上
 - ・野々市町の通勤者の約4割が金沢市への通勤している。
 - ・金沢市と野々市町を結ぶ重要な路線である当該区間の整備によりアクセス性が向上。
- II. 暮らし
 - (1) 歩行者・自転車のための生活空間の形成
 - ・広幅員の自歩道整備により、快適性・安全性を確保。
- III. 安全
 - (1) 安全な生活環境の確保
 - ・幅員3.0mを確保した安全かつ快適な自歩道を整備。
 - (2) 災害への備え
 - ・石川県の第一次緊急輸送道路として、災害に強いネットワークの形成。
- IV. 環境
 - (1) 地球環境の保全
 - ・CO2排出量の削減が見込まれる。
 - (2) 生活環境の改善・保全
 - ・NOx排出量の削減が見込まれる。
 - ・SPM排出量の削減が見込まれる。
 - (3) その他、環境や景観上の効果
 - ・無電柱化が推進され、良好な沿道景観が創出された。
 - (4) 良好な沿道景観の創出
 - ・広幅員の歩道を有する当該事業の整備と無電柱化事業の2つの事業の相乗効果で、良好な沿道景観が連続的に形成された。

その他評価すべきと判断した項目
特になし

事業による環境変化
環境影響評価に対応する項目
特になし

その他評価すべきと判断した項目
特になし

事業評価監視委員会の意見
・今後の事後評価及び改善措置、計画・調査のあり方、事業評価手法についての見直しの必要なし。

事業を巡る社会経済情勢等の変化
・平成18年4月に山側環状道路が全線供用
・平成19年3月に中環状道路が完成（押野陸橋供用）

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性
・野々市市幅は、沿線の商業施設の立地や定住人口の増加による土地利用の高度化に重要な役割を果たしている。
・交通量、旅行速度及び交通事故の実績などから、事業の目的である「交通混雑の緩和」、「歩行者・自転車通行の快適・安全性の向上」は、今回の整備により概ね効果が発現されており、今後の事後評価及び当面の改善措置の必要性はない。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性
・野々市市幅は、国道157号の交通円滑かつ歩行者空間の確保を目的とした事業であるとともに、沿道の商業施設の集積など、地域の活力創出にも貢献するなど、金沢市及び野々市町の発展に大きく寄与している。

- ・ただし、事業が長期にわたっていることから、今後の同種事業においては、P Iなどの整備手法を用い、早期に事業を完成させられるような取り組みが必要である。
- ・また、費用対効果の算出にあたっては、出来るだけ最新の交通状況を踏まえ将来交通量推計を行うことが望ましい。

特記事項

特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。